

事之由、弥重存候。當國之儀茂、逐日靜謐候。自然相應之義候者可蒙仰候。不可有疎意候。次雖輕少候、相原拾帖進入候。表微志計候。猶期後音候。恐々謹言。

正月廿九日

綱連 在判

栗棘庵

御返報

長九郎左衛門尉

(上書) 栗棘庵

綱連

御返報

(この綱連は、花押に據りて案ずるに續連の養父たる英連の初名たるべし。)

【栗棘庵文書】

二二三四

去年者預御札、殊五明五本被懸御意候。目出祝着之至存候。自是堅海苔、晝箱令進入候。乍輕少表御音問計候。恐々謹言。

七月十日

綱連 在判

栗曲庵

參御返報

長九郎左衛門尉

(上書) 栗曲庵

綱連

參御返報

(この綱連も亦英連なり。)

【遺編類纂】

二二三五

御上洛以後者、依無幸便以書狀不申入候。併相似如失本意意外ニ候。仍貴所爲御使、公方様は二万疋進上被申候。其御返事于今無之候。如何之由半隱齋、後藤兵部承不審候。對馬方より雖可申候、折節在庄任之間、自我等令申候。急便御返事相待候。恐々謹言。

九月七日

續連 在判

能登守殿

御宿所

(宛所の能登守といふものは明らかならず。)

【北徴遺文】

二二五六

去秋者預御札、殊更五明五本被懸御意、祝着至存候。自是雖輕少候、杉原十帖令進入候。不相易可申談、表御音問迄候。恐々謹言。

二月九日

續連 在判

栗棘庵

參御返報

長九郎左衛門尉

(上書) 栗棘庵

續連

參御返報

【栗棘庵文書】

二二五七

如仰當春未申通候。萬喜々々可被任芳意候。就其鳥目貳十疋被懸御意候。御懇切難申盡候。隨而自是乍左道、青銅參拾疋進入候。目出度不相易可申承、表祝詞迄ニ候。猶期後音之時候。恐々謹言。

卯月廿日

續連 在判

栗棘庵

貴答

長對馬守

(上書) 栗棘庵

續連

貴答

【北徴遺文】

二二五八

如仰其已後ハ不申通候。無音所存之外處、御音信如御書中被懸御意、御懇切之至難申盡存候。隨而雖左道候、青銅貳十疋進入之候。至微志處迄候。心事情後信時候間不能詳候。恐々謹言。

八月廿六日

續連 在判

栗棘庵

貴答

長對馬守

(上書) 栗棘庵

續連